メール件名：
・「ぎふ食卓の安全・安心メールマガジン（R6.8.30）」

ぎふ食卓の安全・安心メールマガジン
第２１８号　令和６年８月３０日

金属製の容器を正しく使いましょう！

職場や学校などに水筒を持参する方も多いかと思いますが、誤った使用方法が原因で、金属容器から溶け出した金属成分による中毒が起こった事例があることを知っていますか。金属容器による中毒について知り、正しい使い方を心がけましょう。

〇金属容器による中毒とは

・アルミニウムや銅、鉄など、金属で作られた容器や調理器具は、酸性の食品に接触すると金属が溶け出すことがあります。

・通常、短時間では、溶け出す金属の量はごく微量です。また、容器や調理器具の内側をコーティングして金属と食品が直接接触しないようにする等、金属が過剰に溶け出すことがないように様々な工夫がなされています。

・しかし、容器や調理器具に傷が付いていたり、酸性飲料※を長時間保管するなどの誤った方法で使用したりすると、金属成分が食品や飲み物中に過剰に溶け出し、思わぬ事故につながることがあります。

※炭酸飲料、乳酸菌飲料、果汁飲料、スポーツ飲料など、炭酸、乳酸、ビタミン C、クエン酸（柑橘類を始めとする果物に多く含まれます。）などを多く含む飲み物は、酸性度が高くなります。

〇金属容器、調理器具による事故の事例

・スポーツ飲料の粉末を水に溶かして水筒に詰め、長時間置いた際に、内部に銅が溶け出し、スポーツ飲料を飲んだ 6 名が苦味を感じ、頭痛、めまい、吐き気などの症状を呈しました。

→筒の内部が破損しており、スポーツ飲料を入れて長時間置いたことにより、破損部分から通常は飲料に接しない二重構造の内部に酸性のスポーツ飲料が染み込み、保温構造に使われていた銅が溶出したことが原因であると考えられました。

・アルミニウム製のやかんでつくった乳酸菌飲料を摂取した保育園児 15 名が吐き気、おう吐を発症しました。

→アルミニウム製のやかんで長期間にわたって繰り返しお茶などをわかしたことで、水道水等に含まれる銅がやかんの内側に大量に付着･蓄積し、そこに酸性の乳酸菌飲料を入れたため、飲み物の中に銅が溶け出したことが原因と考えられました。

〇金属容器や器具を使用する際に注意すること

・容器の内部にサビや傷がないか、よく確認しましょう。

サビや傷があると、もともと飲み物が直接ふれない部分が露出し、そこから金属成分が溶け出すことがあります。特に、落としたりぶつけたりした場合、見た目では異常がないように見えても破損していることがあ

ります。使う前にはよく確認しましょう。
・使用方法をよく確認し、酸性の飲料を長時間置いておかないようにしましょう。
容器や飲み物の説明書や注意書きをよく確認し、酸性度の高い飲み物や食べ物を金属製の容器に長時間保管しないようにしましょう。もし長時間保管した場合は、通常と異なる味や色になっていないか、よく確かめましょう。

詳しくは、下記リンクをご参照ください。
■金属製の水筒に飲み物を入れる際の注意点はありますか？【食品安全 FAQ】(東京都保健医療局HP)
https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/foodpoisoning/attach/pdf/ecobag-5.pdf

---

○添付ファイル（ＰＤＦ）を開くには AcrobatReader が必要です
お持ちでない場合は、以下よりダウンロードしてください。
http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/readstep2.html
○メールマガジンのバックナンバーはこちら
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/1364.html
○配信中止・配信先変更
mailto:c11222@pref.gifu.lg.jp　までお知らせください。

［ぎふ食卓の安全・安心メールマガジン］
編集・発行：岐阜県健康福祉部生活衛生課
〒500-8570　岐阜県岐阜市薮田南 2-1-1
電話：058-272-8284　FAX：058-278-2627
E-mail：c11222@pref.gifu.lg.jp